

# 経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2404号 2018年04月16日（月曜日）

## 《 Mission Accomplished! 》

先週の世界のマーケットが取引を終えた後、週末に行われた米英仏によるシリアの化学兵器関連施設への攻撃。巡航ミサイルや空爆で行われたが、16日のオセアニア市場から東京市場にかけてのアジア市場が、最初の反応マーケットとなる。当然多少のリアクション（若干の円高や株安）は予想されるが、影響は長引かないと考えるのが自然だ。

1. トランプ大統領やメイ英首相、それにマクロン仏大統領がその前数日間ずっと「警告」を行い、攻撃実施は確実であり問題は「いつ」だけだったので、マーケットはかなり織り込んでいると思われる
2. 当然ながらシリアのアサド政権とその後ろ盾であるロシアは攻撃に強く反発していて、「今回の米英仏の行為は侵略であり、“結果”を伴うことになる」と報復を示唆している。しかしロシア・サイドの“報復”実施の前に、問題は国連安保理に持ち込まれている
3. 米英仏の攻撃にも関わらず、問題となっているシリア反体制派の拠点である東グータ地区のドゥーマでは、まさに米英仏の攻撃があったその日、つまり14日にロシア軍とアサド政権による支配が確立した
4. つまりアサド政権によるシリア支配は大部分の地区で揺るぎないものになった。米英仏の攻撃は「シリアの化学兵器使用」に向けられており、今のところ政権転覆の計画はない。東グータ地区制覇によって、アサド政権が今更化学兵器を使う理由は大きく低下した。つまり同政権とロシアはきっちりと果実を手に入れている
5. 前回のアメリカの対シリア攻撃がアサド政権に大きな揺さぶりとならなかったように、今回の単発的、かつ限定的攻撃は中東全体の図式を直ちに、かつ劇的に変える性格のものではない。トランプ大統領も「任務完遂」と言っていて、米英仏サイドの攻撃継続はアサド政権による次の化学兵器使用がない限り予想されない
6. シリア・アサド政権のもう一つの後ろ盾であるイランとアメリカとの関係は改めて緊迫するが、どちらも直ちに中東で新たな動きを起こす状況ではない。国際機関がシリアのグータ地区を検証するには数日の時間を要する

などがその背景だ。もちろん「火種」は残る。ロシア・サイドが「“結果”を伴う」と言

った以上、何らかの対米欧での対抗措置は打ち出すだろう。それが何になるのかは分からない。しかしアメリカや欧州サイドの対ロシア政策はロシア経済には大きな負担になっており、ロシアとしてもそのエスカレートは避けたい筈だ。プーチン大統領は思われている以上に世論を気にする大統領で、彼のこれまでの問題対処法を見ていると対欧米ではかなり柔軟だ。

これに関連して、アメリカのヘイリー国連大使は「ロシアがシリアの化学兵器使用を止めなかった」ことを理由に、16日にもアメリカが「新たな対ロシア制裁」を発表する方向である事を示唆した。ムニューシン財務長官が発表するとしているので、金融措置を含むと考えられる。前回アメリカが対ロシア制裁を発表したときには、ロシアの通貨と株価は下落し、ロシア経済が制裁に弱いことを露呈した。

### 《 lack of total strategy 》

むしろ長い目でマーケットとして心配しなくてはならないのは、トランプ政権が「中東全体への戦略」を欠いていることによる中東情勢全般の一層の混迷、それに「慎重派はマティス国防長官のみ」と言われる米政権全体のタカ派色の強まりだ。対北朝鮮、対イランでのアメリカの対応に関連してくる。

「倫理的に許せないのでシリア（の化学兵器関連の施設）を攻撃する。もう二度とさせないためにも」（米英）「シリアのアサド政権は一線を越えた」という米英仏の主張は世界に対して一定程度の説得力を持つ。トランプ大統領は今回も化学兵器の犠牲になったとされる反体制派地区の子供達の写真に強く心を動かされて「行動」を決意したと報じられる。重要な要素だ。

しかし国際政治ではそれ以上の論理とリパーカッションへの読みが必要だ。それを強く主張したのはマティス長官が率いる国防総省だったようで、「攻撃の限定化」「ロシア人員や権益への打撃を避けた攻撃」はその成果だとも言われる。しかし問題なのは、今回の攻撃が「人道的見地」であることは分かるにしても、アメリカや西側の中東戦略の全体図の中でどう位置づけられるのか、先に待ち受ける問題の解決にどう役立つのかが不明な点だ。マーケットの観点から見ても、そこが気になる。

「任務完遂」とツイートしたトランプ大統領。確かに「攻撃」という任務は巡航ミサイル「トマホーク」や B1 戦略爆撃機の空爆で行われ、ターゲットとした施設は破壊されたかも知れない。しかしそのトランプ大統領はつい最近まで「シリアからは撤退する」とまで言っていた。ではこの攻撃を最後に、クルド人支配地区に 2000 人強いると言われるアメリカ軍はシリアから徹底するのか。そのところは不明だ。

前回と今回が違うのは、イギリスとフランスがシリアの化学工場関連の施設への攻撃に加わったこと。イギリスは巡航ミサイル「ストームシャドウ」で、フランスはミラージュ、ラファールが空爆したとされる。イギリスとフランスの行為は、今までのトップの発言の延長線上で理解できる。それはシリアの政府が反政府勢力地域に化学兵器を使ったとの証拠

をつかんだと主張した上で、「倫理的に許せない」という一点だ。

トランプ大統領にもこの気持ちはあるし、それは当然だろう。しかし中東全体の平和維持に戦後深く関わり、今も「私なら容易に中東に和平をもたらせる」と言って大統領になったトランプ大統領には「その後の絵」も示して欲しいと思う。政権の中にも攻撃やそのやり方への異論はあった。一番攻撃開始に慎重だったのはマティス国防長官。彼は「中東に関する全体の戦略の中での攻撃の位置づけ」にこだわったようだ。当然だろう。

今回の攻撃実施を強く主張したのは、新たに就任したボルトン大統領補佐官（国家安全保障問題担当）だとされる。この新任補佐官の強硬、タカ派ぶりはつとに有名だ。今年2月に「アメリカが北朝鮮を先制攻撃するのは完全に正当だ」と述べたし、イランとの核合意には反対で、逆にイラン攻撃を主張したこともある。米紙ニューヨーク・タイムズは「彼は国際法や条約、以前の政権の約束などお構いなしに、その時の米国が望むことを何でもできると信じている」と論評している。

マティス国防長官を除けば完全に新体制となったトランプ政権。恐らくイランと北朝鮮への警告の意味もあるシリア攻撃だったのではないか。とするとマーケットとしては「トランプ政権の次の出方」を注視しておく必要がある。ロシアとアメリカの対立も深まった。少なくとも表面的には。

トランプ大統領としては、国内政治への配慮・思惑もあるのだろう。中間選挙が迫っているし、司法関連の事件ではトランプ大統領の外堀は徐々に埋められている。国民の目を外に、というわけだ。こうした環境で「何をするか分からない」という不安がこの大統領には付きまとう。マーケットとしてもそこが心配だ。

### 《 political uncertainties: here in Japan also 》

今週から来週にかけては、国際政治ばかりでなく国内政治でも不安が募る。この週末も様々な機関が世論調査結果を発表している。共同通信社が14、15両日に実施した全国電話世論調査によると、学校法人「加計学園」の獣医学部新設計画をめぐる「首相案件」文書に関する安倍晋三首相の説明に、「納得できない」との回答が79.4%に上ったという。納得できるは13.2%にとどまった。

中でも注目されるのは、野党が求めている元首相秘書官の柳瀬唯夫氏の証人喚問が必要だとする答えが66.3%に達したこと。不要は27.6%に過ぎなかった。こうしたことを背景に内閣支持率は37.0%となった。3月31日、4月1日両日の前回調査より5.4ポイントも低下。不支持は52.6%で支持を上回る逆転状態が続いている。朝日新聞の世論調査でも、国民の間に安倍政権に対する不満の高まりが鮮明だ。

「記憶の限りでは、お会いしていない」との主張を崩さない柳瀬唯夫氏に関しては、それと相反する文書が出てきたことから、与党の中でも参考人招致、または証人喚問やむなしの意見が強まっている。安倍首相は17日から訪米するので、来週の国会でどちらかが行われる可能性がある。仮に「柳瀬発言」が決壊するようなことになると、国内の政局は一気に流

動化する可能性がある。それを注意しておきたい。

-----  
今週の主な予定は以下の通り。

04月16日（月曜日）	17年度と3月マンション市場動向 3月米小売売上高 4月NY連銀製造業景気指数 2月米企業在庫 4月NAHB住宅市場指数 IMF・世銀春季会合（～22、ワシントン）
04月17日（火曜日）	2月対米証券投資 2月鉱工業生産指数（確報） 1～3月期中国GDP 3月中国鉱工業生産 3月中国小売売上高 3月中国都市部固定資産投資 4月独ZEW景況感指数 3月米住宅着工件数 3月米鉱工業生産 3月米設備稼働率 国際通貨基金（IMF）が世界経済見通しを発表
04月18日（水曜日）	17年度と3月貿易統計 石油製品価格調査 3月欧州新車販売 米地区連銀景況報告（バージュブック）
04月19日（木曜日）	4月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数
04月20日（金曜日）	3月消費者物価 2月第三次活動指数 3月粗鋼生産速報 3月主要コンビニ売上高 G20財務相・中央銀行総裁会議（ワシントン） 主要銀行貸し出し動向アンケート調査

### 《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。桜の季節も過ぎ、花粉の最盛期も過ぎて、雨さえ降っていなければ外歩きするのがとっても楽しい季節になりました。朝晩の空気は特に気持ち良い。良い季節です。この気持ちよさもしばらくで、その後は朝も晩も暑いということになりそうです

が、そうであれば今のうちに気持ちの良い空気を吸っておきましょう。

ところでこの一週間で日比谷に出来た新しい商業施設である東京ミッドタウン日比谷に2度ほど行きました。食事・買い物と、もう一回は映画に。もう週日の昼間はそれほど混んでいない。

同じミッドタウンでも六本木のそれとはかなり違う。一番大きな違いは映画館が六本木にはないが、日比谷にはある点。それがまた椅子の座り心地が良いのです。柔らかすぎず、堅すぎず。眠くなりそうでならない(?)。プレミアムシートでなくても、本当に気持ち良く映画鑑賞が出来ました。なにセスクリーンの数は11もある。以前の地下の映画館とは比べものにならない。

地下一階から三階までは商業施設。食べ物コーナーはGSIX(銀座シックス)とほぼ同じコンセプトで出来ている諸々レストラン集合コーナー(確か地下1だった)が一番大きく、あとは各お店が比較的特徴のある食べ物を提供している。私が一回だけですが食べたのは「Revive Kitchen」という店でしたが、精進料理を新しいコンセプトで美味しく提供している。ちょっと物足りないが、二日酔いの時などに「お茶漬けでは足りない」と言うときには良いかも知れない。

六本木のミッドタウンと大きく違うのは建物の形状と、お店の配置です。六本木は一階から3階までがファッション・コーナーで、食べ物は地下におまとめされている。しかし日比谷のミッドタウンは1、2、3階ともレストランとその他のファッション関係が入り乱れている。それが面白い。代官山の蔦屋的発想で、ファッションのお店に出入りする人を眺めながら食事が出る。

お店の人に聞いたのです。「ファッションの店は早く閉まり、レストランは遅くまでやっていますよね。その時間帯はどうなるのですか？」と。レストランは11時まで、その他は9時までだそうです。お店の人は、「確かに夜9時からちょっと寂しくなりますね」と。まだその時間帯に行ったことがないので、「どんな感じかな」と思っているのです。六本木のミッドタウンの地下一階のレストランは夜11時なんてやっていない。夜9時には店を閉めますから、その点は随分と違う。

そう言えば地下の駐車場が面白かった。日曜日の午前中に車を入れたのです。機械式に。そしたら、「中に人がいないか、忘れ物がないか、このボタンを押して下さい」とブルーのボタンを指さされた。「へえ、こんなシステムなんだ」と。私にとっては初めてでした。なんかあったんですかね。子供を乗せたまま機械式に車を入れてしまった、とか。六本木のミッドタウンは機械式もあるが、ほとんどはフォロア駐車です。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail [ycaster@gol.com](mailto:ycaster@gol.com))の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。》

また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》